

## インターバンクの声（2015年10月2日）

週初の欧米株式市場の大幅下落の要因の一つともなったスイス資源大手グレンコア株価の相変わらずの乱高下を横目で見ながらも、アジア時間に発表されていた中国の製造業が予想された程悪くなかったことで、昨日の欧米株式市場は買い相場を目論んでいたはずだ。実際、欧州では資源需要の回復などを見越してエネルギー株などが買われ始め上昇相場となっていたが、ニューヨーク市場でISM製造業景気指数の2013年10月以降で2番目に低い水準となる発表があったことで、NYダウは一時200ドル安まで下落、欧州株もつれ安となってしまった。当然ながらこの場面では米国債利回りも低下し、為替市場もドル買いに向かい難い状況になってしまった。それでもその後NYダウが反発に転じ、米国債利回りの低下も収まって来たため、ドル円はゆっくりだが120円方向に戻り始めた。まだアジア市場の時間は残されているが、結局は週初の市場参加者の多くが予想していたように120円に近い水準で米雇用統計の発表を待つことになりそうだが、余程予想値から乖離した発表にならない限り極端な相場展開にはならない気がする。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。